

414
A2519

別紙細川廣重裁判醫學ヲ備セ
 シクルノ建言至當ノ儀ハ存ハ間ハ採
 用有之存ハ也
 六年一月十七日
 左院



大正十一年四月



刑律ハ天下ノ重典ニシテ司法ノ大任ナリ今ヤ
新ニ法律ヲ定メ各府縣ニ裁判所ヲ設ケ律例ヲ
以テ公平ノ處置ヲ行ハントス然ルニ名例職制
戸婚賊盜訴訟等ノ諸律ニ至リテハ常人ノ聰明
以テ到底律上ニ照合スルヲ得ヘシ獨リ人命律ニ
於テハ醫ヲ知ラサル者ノ裁判ヲ以テ明確ニ處
シ難キ所アリ毒藥殺人庸醫殺傷人スルノ條ニ
至リ其判然タルモノハ律ヲ以テ論スヘキハ當

天正十一年四月
天隱侯御書贈

然ナリト雖氏或ハ猛毒ノ劑ヲ以テ人ヲ殺シ或
ハ人身貴要ノ部ヲ打傷シテ致命傷ヲナス者ノ
如キ實ニ纖微ノ藥量ニ斃レ些少ノ打傷ニ死ス
ル等一目瞭然ニ知ルヘカラス之ヲ知ルニハ能
ク人身解剖窮理ノ學ニ長シ博ク舍密ノ術ヲ諳
シ或ハ血液ノ成分ヲ檢シ或ハ吐下ノ物品ヲ分
析シ初テ有毒無毒可死不可死ノ明確ヲ親認シ
然シテ後律ヲ以テ之ヲ論スルニ故ニ西洋諸國

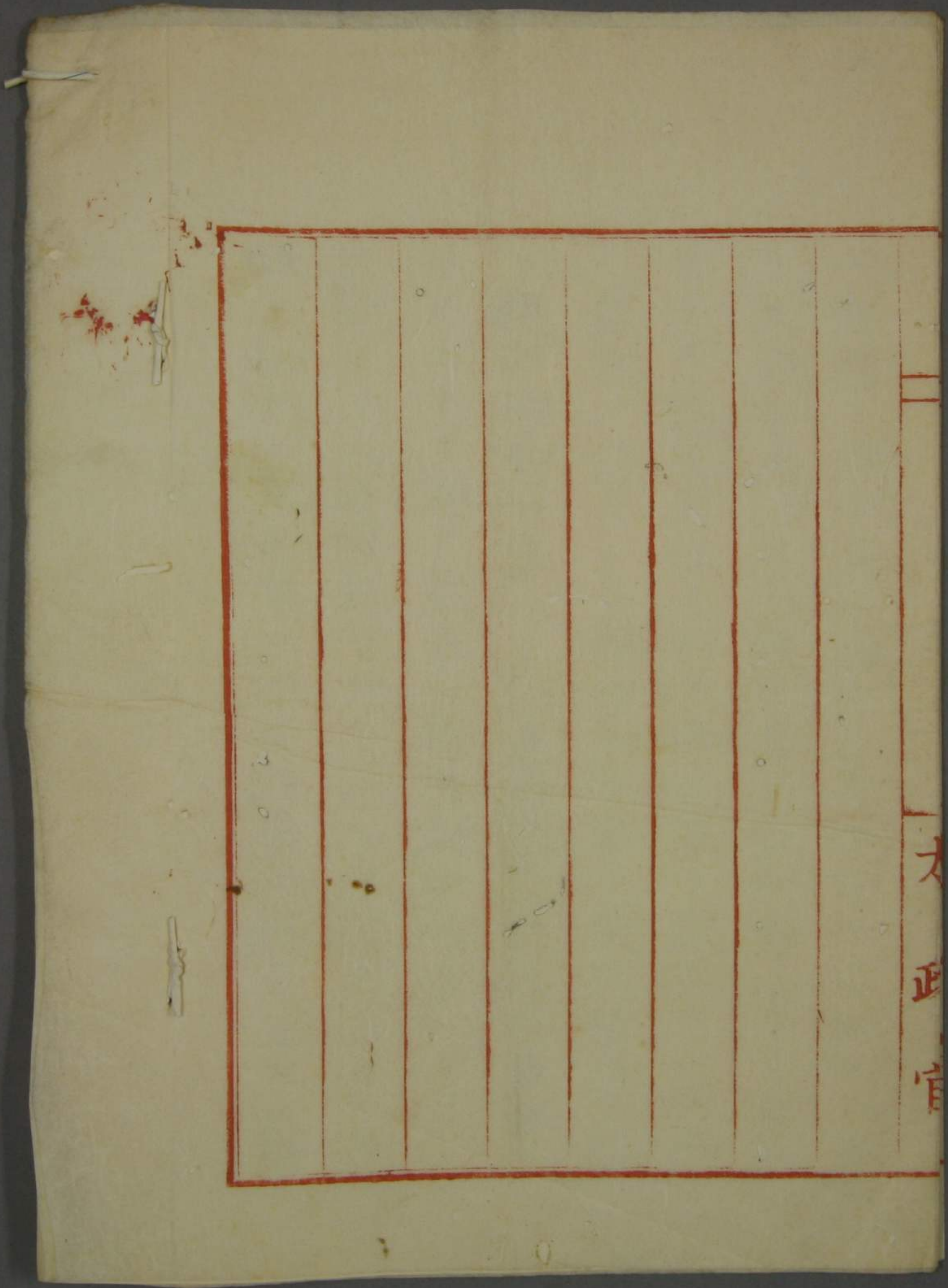
醫學ヲ修スルニ必ス裁判醫學ノ一科アリコノ
醫學ヲ修スルモノ判事ノ職ニ列シテ裁判ノ事
務ニ関スト皇國現今ノ醫學校ニ於テモ學科中
裁判醫學ノ科目アリト虫氏一般ニ醫學ヲシテ
之ヲ五ケ年ノ定限トシ學科ヲ分ツテ十期トナ
シ十期ヨリ滿リテ一期ニ至リ初テ成業ノ免許
ヲ與フ裁判醫學ハ其第二期ニ位スル者ニシテ
尤高尚ノ學トナス現今醫學校ニ於テ本科ニア

ル者僅ニ四十名ニ過キス其成功モ亦期スヘカ
ラス假令成功スト雖氏盡ク裁判醫官トナスハ
カラス然レモ司法ニ於テ此一負ヲ缺クハ公平
ノ裁判ヲ得サルハ顯然ナリ早ク裁判醫學ノ校
ヲ設ケ相當ノ生徒ヲ撰ヒ専門ノ裁判學ヲナサ
シメサルヲ得ス或ハ之ヲ文部ニ依托シ定負ノ
生徒ヲ以テ醫學校ニ送り本科生徒教導ノ餘暇
ヲ以テ裁判ノ醫學ヲ修セシメハ別ニ校ヲ設ケ

師ヲ招クニ及ハサルヘシ到底此學アラサル時
ハ恐ラクハ人命律ニ於テ必ス失錯ヲ生センコ
トヲヨツテ之ヲ建言ス誠恐誠惶頓首

明治六年一月

左院七等出仕細川廣世



太
正
官